

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー旭神(こはく館)		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	令和2年1月	評価結果市町村受理日	令和2年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902504-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心身の健康が維持され、自分らしい生活が送れるように支援しております。近隣に旭神中央公園があり盆踊りに参加したり、地域の行事や親睦会に参加をしております。令和元年は町内会の”芸能の集い”に参加し、入居者様がステージに上がり合唱を披露されました。毎月レクリエーションもおこない、夏は外出や外食・冬はボランティアの方にお越しいただき室内で音楽鑑賞や入居者様と一緒にお菓子作り等を楽しんでおります。ご家族様参加の忘年会もおこない、1年間の思い出をスライドショーで振り返っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームユニティー旭神」は静かな住宅街に位置し、近隣には公園や大型商業施設などがあり利用者が散歩を兼ねて気軽に出かけられる環境にある。1階はデイサービスセンター、2・3階に各ユニットがある。共用空間は明るく清潔感があり、畳敷きコーナーが設置され利用者が布団を持ち込む事があるなど様々な活用に活用している。運営方針にあるように地域活動への参加を積極的に支援しており、資源回収や清掃活動、敬老会や芸能の集いなど町内会の活動や行事に参加したり、デイサービス夏祭りに加わり地域の方々と交流している。またアコーディオン演奏ボランティアの受け入れや年2回高校生によるボランティア活動は利用者の喜びの一つとなっている。毎月レクリエーションを企画し、施設内でのミニ運動会や音楽観賞、ボーリングや貼り絵、戸外行事では職員が景観の良い外出先を選び色々な方面へ出かけている。家族参加の忘年会やスライドショー、今月の様子としてお便りを渡すなど、本人を共に支え合う家族との関係を大切にしている。昨今の感染症予防対策で家族面会が控えられる中、利用者の心情を察し思いに寄り添う職員の姿があり、丁寧で優しい接遇、自己選択や自己決定の支援など、技術的な介護力と共に評価される点である。重度化や終末期の支援にも力を注ぎ、事情が許す限り事業所が終の住処となり利用者の暮らしを支えている。管理者と職員が利用者の満足・喜び・幸福をみのりあるものとなるようサービスを提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が豊かな人間関係を維持できるよう『地域活動への参加を積極的に支援し地域に根差したサービスを提供』という事業所の運営方針に掲げ職員間で共有しています	事業所独自の理念を掲げ、さらに運営方針の中で「地域活動への参加を積極的に支援し地域に根差したサービスを提供」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を共用部分に掲示し、研修等で理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し資源ゴミへの協力や、町内清掃活動をおこなっています。芸能の集いや盆踊りにも参加しています。今年はステージにあがり合唱を披露しました。	清掃や資源ゴミ協力、敬老会や芸能の集い、盆踊りなど町内会の各行事に職員と利用者が参加している。同法人デイサービスセンター夏祭りに出かけ参集する方々との触れ合いがある。アコーディオン奏者や年2回高校生ボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての勉強会は開いていませんでした		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催し町内の方、ご家族からの意見を取り入れています。不参加の家族には議事録を送っています。	当年度は新型コロナウイルス感染症予防対策により最終開催は4月の予定である。参加者から災害対策や事故報告について意見が上がり、取り組みに活かしている。会議案内・議事録を関係者へ送付している。	会議で意見交換を行った内容やその後の取り組み状況等を盛り込むなど、参加できない家族にも周知となるよう議事録の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思ったことは、電話や窓口へ行き教えていただいています。	年1回の市の集団指導では、今後運営面で留意する点の説明や指導を得ている。管理者は市の担当窓口に出向き書類関係で意見を仰いでいる。市包括支援センターから身体拘束に関する外部研修の案内が届き、今年度は2名が受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を設置し、3か月に1度開催し話し合っています。議事録を他の職員に回覧し、話し合った内容を共有しております。	身体拘束・虐待防止委員会の指針を整備している。当委員会を3か月に1度開催し、身体拘束チェックシートを用いて事例検討を行っている。年2回のこれらに係る内部研修のうち1回は講師を招き実施している。利用者の状態変化に伴うリスクについて家族へ伝えている。共同玄関・ユニット玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、身体拘束・虐待防止の内部研修をおこない防止に努めています		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『成年後見制度』の講習会に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時に契約書・同意書の説明をし質問を受けながらおこなっております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは日頃よりお話を聞き、ご家族様とのコミュニケーションも大切に意見を反映しています。玄関に意見箱も設置しております。	利用者から「家族に電話をして欲しい」また家族への思慕に繋がる感情の表出を受け、満足を得てもらうよう適宜対応している。家族からの意見や要望は個別ノート・連絡帳に記し、支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議をおこない意見があれば実践しています。	月1回ユニット会議を開催し、職員の意見や情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。一例では景観等が綺麗な場所を外出先として職員が企画している。年2回管理者が人事考課面談を実施し、事前に職員が自己評価に取り組んでいる。希望休制度を整え、働きやすい職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場に入り一緒に働き、職員の勤務状況を把握したり6月・11月の人事考課に面談をおこない意見を聞き職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加や外部研修にも参加しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者との意見交換をおこなっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始にあたり、何に不安を感じているか、どのような要望があるか、表情や言動をを観察し少しでも早く安心していただけるように接しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴を伺い、ご家族様の要望を取り入れ、ご家族様が安心できるように心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見・状態を見て一番良い支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちを聴き一緒にできる事、運動、家事、(盛り付け、食器拭き、掃除)等行っています。又、入居者様が得意なことはスタッフが教わったり、お話を聴かせていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に情報を伝え、ご家族様と共有しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人にお誘いも減りましたが、機会があった時は本人の現在の様子をお伝えし、アクシデントが起きないように配慮しています	学生時代からの親友夫婦の訪問があり、居室にテーブル等を用意しゆっくりと過ごしてもらっている。また昔の職場の方と一緒にドライブに行ったり、家族と街中で待ち合わせて一時帰宅のサポートを行った事例もある。家族の結婚式や配偶者の葬儀に参列している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や日常の生活ペースを尊重したうえでコミュニケーションが取れるように努めています		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成20年に退去された方とは電話・年賀状のやり取りをしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の言動・行動から、本当の思いが何かを気づきスタッフ間で共有しています	硬い表情等で把握が困難な利用者にとっては、声かけや接遇により表情の表出に繋がったり、同じ行動をとる要因を検討し本人の視点に立つなど、職員は一人ひとりに関心を払い想いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるときに、ケアマネジャーから情報提供をいただいたり、本人やご家族様からお話を聞き把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の健康状態や行動などをスタッフ間で共有し介護記録に残しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議をおこない、スタッフ間で話し合い、本人やご家族様に意見を伺い3か月毎に介護計画を作成しています	評価月に利用者の担当職員が本人の困り事や気づいた点を纏め、ユニット会議で話し合い、モニタリングに反映させ、介護計画を作成している。日々のケース記録に計画目標を載せ、目標を意識しながらサービスを提供し、情報を蓄積している。	介護計画書の第1表を作成する意向であるので、期待したい。またアセスメントの更新については職員教育に付随する形で取り組みつつあるので、その実現に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子や、訴えがあった時の対応、その対応に対しての様子などを記録しスタッフ間で共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	盆踊りの好きな方へは、スタッフが付き添い、心行くまで踊っていただけます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加し、一緒に楽しみ交流を深めています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医はご家族と本人の希望に沿うようにしています。本人に変化が見られる時はご家族に説明をし、主治医にお手紙を書き状態を伝えております。	月2回協力医療機関の往診体制を整備している。看護師は職員として配置し、週1回健康チェックを行っている。家族で通院が難しい場合は、事業所に対応している。医療内容は個別の特記記録、ケース記録に記している。	

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週一回の健康チェックがあり、常に連絡できる体制になっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介添書を作成して申し送りをおこなっています。入院中も様子を伺いご家族の意向を聞き取って介護・看護につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に応じて医師と家族とホームとで話し合い、24時間対応の往診医に変更し安心していただけるようにしています。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」を説明し、医師の看取りの判断が出た時点で再度説明し、合意形成を図っている。昨年ターミナル支援を行い、訪問看護の協力を得ている。現在2名の重度化支援に尽力している。看護師の協力で看取りに関する資料を得て勉強会を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置や、救命講習をうけたり、事故マニュアルの作成もしています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(年2回)はおこなっています。内1回は夜間想定で消防署立会いのもと町内会にも参加していただきおこないました。	今年度6月に夜間・火災想定で消防署の協力と町内会の参加を得て避難訓練を実施している。12月には日中想定での避難訓練と重度化の方の搬送訓練を合わせて行った。災害備蓄品を確保している。水害での避難場所は当事業所3階としている。	当事業所3階への避難とその際の避難生活にあたり、備品等を含めた具体的な支援態勢について検討する意向であるので、その取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のお話を傾聴し、理解し安心できるように心掛けています。	法人事業所合同の接遇研修を実施している。職員の声かけや対応は優しく温かみがある。管理者は、気になる言葉かけがあればその都度注意をしている。個人記録類は部外者の目に触れぬ場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動や様子を観察して、本人が望んでいることを理解していき、自己選択や自己決定が出来るように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムに合わせ、離床・食事・排泄などの支援をおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候にあった服装が選べるように支援したり、毎日リップクリームで唇を保護しています。男性はシェーバーを渡し毎朝髭剃りが出来る様子を支援しています。髪をカールする方は、入浴後に巻いて頂いています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができる入居者様には、随時、声掛けし盛り付けや・配膳・テーブルふき等のお手伝いをお願いしています。スタッフとおこなうことで会話を交わしながら楽しくおこなえています。	本部の栄養調理部作成の食事を中心に、月1回は利用者の好みを取り入れた献立にしている。最近ではひな祭りにちらし寿司を味わっている。回転寿司や喫茶店でコーヒーやケーキを楽しむことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量の記録や、咀嚼・嚥下の状態も記録しています。水分が進まない方にはゼリーを提供し水分量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には声掛け・見守りを行い、介助が必要な方には、歯ブラシの他状況に応じてスポンジ・シートなどを使用しケアをあいています口腔内が乾く方には口腔ジェルの使用もしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が可能なのは、なるべく自らの立つ力を使っていただき時間を見てトイレへご案内しています。	声かけや誘導が必要な方を中心に、ケース記録に排泄状況を記録している。適切な支援により排泄用品の使用が不要となった利用者がある。昼夜ともにトイレでの排泄を基本に、状況に応じて夜間のみベッド上でパッドなどを交換することがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操を大切にしています。自力排泄が難しいような場合は腹部マッサージをおこない、少しでも楽に排泄が出来るように支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に応じて介助をしています。入浴拒否のある方には「お風呂が気持ちよかった」と感じていただけるように声掛けをおこなっています。	日曜日を予備日として、午後を中心に1人週2回の入浴を支援している。本人の意向に沿って入浴順や湯温に配慮し、入浴剤などを使用して入浴が楽しめるように工夫している。重度化の方へは入浴介助用具等を使用し可能な限りシャワー浴などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や一日に何度も変化する気持ちに合わせて、リビングや居室で休んでいただいています。不安な気持ちが強い時はスタッフと一緒にいることで少し安心されています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人内服薬の説明書をファイルしスタッフが目で見てわかるようにしています。変更になった時は必ず記録をし情報共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが好きな方には家事仕事を、手先を動かしたい方には塗り絵・縫物・折り紙などを、歌や踊りが好きな方にはスタッフと共に踊り、楽しく・充実した時間を持てるように支援しています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には散歩に行ったり、奥様の面会や、ドライブ・外食などご家族様と外出ができるように支援しています。	普段は近隣を散歩したり、買い物などに出かけている。職員と一緒にプランターに植える花を買いに行く利用者がいる。季節に応じて公園や動物園、科学館などに外出している。銀座商店街の七夕祭りに作品を出展し、見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はいませんが、所持していない事への不安を口にされるときには、安心していただけるように声掛けをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「息子に電話をしてほしい」と、希望されるときには時間をみて電話をし、声を聴いて安心できるように支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・時間帯等に応じ臨機応変に気温・湿度調整をおこなっています。季節感がわかるようにホールには季節の壁飾りを掲示しています。	共用空間は広く清潔感があり、トイレや浴室などを中心に居室を配置した回廊式の造りである。大きな窓に面した居間には明るい光が注ぎ、ダイニングスペースの横に和の畳敷きコーナーがある。季節感ある桜の装飾や塗り絵、折り紙など利用者の作品が飾られている。加湿器を設置して、温度や湿度などの環境整備を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	音楽のお好きな方は一人でテーブルにつき音楽に耳を傾けたり、仲の良い入居者様同士で話が盛り上がっている時は隣同士に座っていただき声が聞こえやすいように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、ご自宅で使用していたものや家族とのお写真を自由に飾っています。お花が好きな入居者様は、毎日、お花の水やりを日課にされています。	クローゼット付きの居室に好みのテーブルやタンス、テレビなどが持ち込まれ使いやすく配置されている。壁に本人の習字や塗り絵作品、職員からの誕生日カードや賞状、メダルなどのプレゼントが飾られている。利用者の状況に応じベッドから布団敷にしたり、床に敷物を敷くなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器を使用している入居者様がスムーズに館内の行き来が出来るように、物を置かないように配慮しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー旭神(さんご館)		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	令和2年1月	評価結果市町村受理日	令和2年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心身の健康が維持され、「出来ること」を少しでも長く継続ができるように支援をしております。近隣に旭神中央公園があり盆踊りに参加したり、地域の行事や親睦会に参加をしております。平成25年より「みのりの会」も続いており、お食事やおつまみに工夫を凝らしノンアルコールビールと一緒に楽しませております。毎月レクリエーションもおこない、夏は外食・外出をし冬は室内でのミニ運動会やご家族様参加の忘年会もおこない楽しみの持てる時間が増えるように考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172902504-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域活動への参加を積極的に支援し地域に根ざしたサービスを提供します、という運営方針に掲げ職員間で共有しています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、資源ごみの協力に参加したり、町内のイベントへは参加できるようにしています。地域のボランティアの方が来館しアコーディオンの演奏や、年に2回は傾聴ボランティアで高校生がきてくださいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ積極的に行っていませんでした		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催し町内の方、ご家族からの意見を取り入れています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に感じたことは、直接市の窓口へ行き教えていただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については委員会を設置し3か月に一度開催し拘束について再確認をおこない、議事録はスタッフが目を通しています。運営推進会議で報告もおこなっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は委員会や講習参加者の報告書を回覧し確認しています。年に2回、身体拘束・虐待防止の内部研修もおこなっています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『成年後見制度』の講習会に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族の理解を得られたとおもいます。改定の際は、文書を送付し疑問があるご家族には個別に対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから入居者様との話を汲みとり、面会時にはご家族とのコミュニケーションを大切にし気兼ねなくお話ししていただける雰囲気作りを心がけております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議で話し合いを行い良い方向に向かうように努めております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月・11月の人事考課時に面談を行い勤務環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(3か月・1年・2年)研修を社内で行っています。また外部研修も職員に回覧し参加しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者との意見交換をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報を含め入居前・入居後の行動や発言を観察しながら、安心していただけるように寄り添っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとを聞き、少しでも解決に向けたり、要望に応えられるか等、スタッフ間で話し合い満足していただけるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を含め、現在の本人とご家族の必要な支援を話し合い、より良いサービスが提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の様子を見ながら、一緒にできること(体操・嚙下体操)や、個人で出来る事(塗り絵・新聞おり)等を見守っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なお手紙や面会時のお話等、色々な面から考えられるようにお話できる機会を作っています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に1,2回ほど、学生時代からの親友夫婦が面会にきています。面会時には入居者様の状況報告をおこない、テーブル・椅子などを用意し、くつろいでいただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な性格の入居者様がいる中で、入居者様同士がコミュニケーションを図れるように、職員が間に入り関係が深まるように努めています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族が、新たに入居を希望され、ご相談に来られることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話、仕草などから思いや意向を汲み取るように努めています。困難な場合はご家族にご相談をすることもあります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・本人とコミュニケーションをとり、これまでの生活歴を伺ったり、ケアマネジャーより情報提供をお願いし入居前の生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の状態を把握し、変化がみられた時は見逃さないように記録に残すようにしています。ご家族には「今月の様子」にひと月の様子を記入しお渡ししています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時や電話での報告と次回のケアプランを報告し、意見を伺っています。ユニット会議で本人の様子からサポートが必要な部分・維持できる部分などを話し合いケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に個別の記録をおこない、ケアの実践・状況がわかるようにしている。緊急性・重要性があるものは、業務日報の日中・夜間の様子に記載しています。特変がみられた時は介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族受診が難しい方には職員が対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊り、町内清掃、芸能の集い等、地域の催しに参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族と本人の意向に沿うようにしています。本人に変化が見られたときは電話やお手紙、ネットで状況を伝えています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師へ、気になる入居者様の様子を伝え、どのように対応・対処したらよいか相談し適切なケアへつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族と連絡をとり、退院後安心して生活ができるよう、入居者様・ご家族の不安解消に努め病院と連携し情報交換をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又は終末期の入居者様に対し、ご家族の思いを受け止め、その思いをスタッフみんなで受け止めるよう努めています。又、医師との連携も往診時だけではなくネットを用い変化があれば伝えていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や応急手当の対応は、ミーティングの時に事例などを用い再度確認し、又、救命講習を受け九返事の対応に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練をおこなっています。内1回は消防職員に立ち会って訓練の様子を確認していただいています。町内の方にも協力いただき、入居者様の避難にあたっていただいています。避難後には寝たきりの方の避難や身近にあるものを使っての救助訓練もおこなっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの大事に思っている事、その方の人格を尊重し不快にならないよう声掛けや対応をおこなっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様をご自身の思いを表しやすい雰囲気づくり、又、入居者様の行動を注視し適切な所での声掛けができるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安静にしている時間が多い方には、食事・水分等時間にとらわれず、その方が覚醒し、状態を見ながら提供しています。洗面・入浴も個々の入居者様のペースに合わせおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れている時は、さりげなく居室へ誘導し正しています。又、入浴時や汚れた時の服を交換する際は、どの服が良いか入居者様が選んで頂けるように支援しています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に盛り付けや食器拭きをお願いし、職員と会話をしながらおこなっています。食事の形態も個人に合わせ、食べやすいように工夫をしています。たまにですが一緒にお菓子を作り楽しんでます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量を記録し状態を把握しています。嚥下の様子を見て、とろみ剤を使用したり、寒天ゼリーや好みの飲み物を提供し水分量が増えるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声かけをし、最初にご自身で磨いていただき、その後は職員で仕上げ磨きの介助を行っています。安静に過ごされている方は、口腔ジェルを使い口腔内の乾燥予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄の状況を確認しトイレ誘導をおこなっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行を促し体をうごかすよう声かけを行っています。野菜ジュースや牛乳や寒天ゼリー、食物繊維が豊富な食事も考慮しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望を聞き、週2回以上入浴できるように案内しています。本人の好きなシャンプー・石鹸等を使用したり好みのお湯の温度に調整をしています。拒否のある方には、何回か声掛けをしたり、翌日に変更して様子を見ています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールで、ゆっくりと休めるようにソファを置いたり、好みの場所で休めるように椅子を配置しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書をファイルに収め、変更が或る時には記録に残して情報の共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「手伝うよ」とおっしゃる方に洗濯物干し・たみ食器拭き等をお願いし、歌の好きな方には職員も交えて唄っています。コーヒーがお好きな方には、その日の気分に合わせてアイスかホットを用意し飲んでいただいています。		

グループホームユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さんご館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	窓から見える家が自宅だと思おうで「車が止まっている」と気になる時は外へ確認にいたり、天気の良い日は散歩に出かけます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理されている方はいません。一緒に買い物に行き、必要なものの買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「娘に電話をしてくれ」と時々要望があり、本人の要件をお伝えしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温・湿度を適温に保ち、換気も行います。季節に応じて掲示物や装飾も変化をつけています。3階なので周りに建物が少なく日当たりが良いです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっていますが、状況に応じて空いている場所に移動し入居者様同士でお話したり、静かに雑誌を読みたい方は一人になれる席で読書をされます。のんびりソファでテレビを見ながら休まれたりすることもあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に通っていたデイサービスでの思い出の写真を飾ったり、ご自宅で使っていた衣装ケースを持ち込まれたり、居室で過ごされる時間が安らぐ時間になるようにご家族とお話をし配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用の入居者様が多いので、安全に移動できるように館内はバリアフリー仕様なものと通路に物をおかないように充分配慮しています。全域に渡って手すりも付けられています。トイレの表示も見やすく貼っています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームユニティ旭神

作成日：令和 2年 4月 1日

市町村受理日：令和 2年 4月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設で避難生活をおくる事を想定し、食料や水の備蓄・ラジオ等の確保はしているが、まだまだ足りないもの・備えなければならないものもある。	冬期の災害を考え必要な物を揃えておく。	必要な物のリストを作成・順次用意していく。	1年
2	26	ユニット会議で、入居者様の心身の状況変化を話し合い、次の介護計画に反映させていたが、個別のファイルにアセスメント表を作成していないため、変化が始まった時期の特定が難しいのと、第1表を作成していないので家族や本人の気持ちを記録していなかった。	センター方式シート(B-3)を作成して本人の思いや意向の把握に活かし、アセスメント表も作成し心身の変化に、より早く気づけるようにしたい。本人やk族の思いも確認したことが残せるように第1表の作成を行う。	ケアスタッフにセンター方式のB-3シート・アセスメント表の説明を行い、変化に気づいたときはシートに記入し、定期的・状況に変化が起きた時はアセスメント表の作成を行う。	1年
3	4	運営推進会議で意見交換や施設の取り組み等話をしているが、議事録に記載されず不参加の家族様には伝わっていなかった。	会議で意見が出た時は議事録に記載していく。	不参加の家族様に会議で話しあってほしい内容・前回の議事録を読んで疑問に思った事などの確認を行い、次の会議で話し合ったり、会議で発言された事を議事録に記載していく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。